

- 28.かれは離別（の時）であることを悟るであろう。
- 29.一つの脚は他方の脚に絡まり、
- 30.その日かれは、主に駆り立てられる。
- 31.かれは真理を受け入れず、また礼拝も捧げなかった、
- 32.却って（真理）を虚偽とし、背き去り、
- 33.思いあがって家族の許に赴いた。
- 34.あなた（多神教徒）に災いあれ、（本当に）災いなるかな。
- 35.重ねていう。あなたに災いあれ、（本当に）災いなるかな。
- 36.人間は、（目的もなく）その儘で放任されると思うのか。
- 37.元々かれは射出された、一滴の精液ではなかったか。
- 38.それから一塊の血となり、更にアッラーが、（均整に）形作り、
- 39.かれは、人間を男と女の両性になされたのではなかったか。
- 40.それでもかれには、死者を甦らせる御力がないとするのか。

SURA 76.人間章〔アル・インサーン〕1

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.人間には、なにものとも呼べない、長い時期があつたではないか。
- 2.本当にわれはかれを試・るため混合した一滴の精液から人間を創った。それでわれは聴覚と視覚をかれに授けた。
- 3.われは、人間に（正しい）道を示した。感謝する者（信じる者）になるか、信じない者になるか、と。
- 4.不信心者には、われは鎖と首枷と烈火を準備して置いた。
- 5.（信者の）善行者は、カーフルを混ぜた杯（の飲物）を飲むであろう。
- 6.（それは）アッラーのしもべたちが飲む泉のことで、われは思いのままに滾々と（泉を）涌き出させる。
- 7.かれら（善行者）は誓いを果し、災厄の広がる日を恐れている。
- 8.またかれらは、かれを敬愛するために、貧者と孤児と捕虜に食物を与える。
- 9.（そして言う。）「わたしたちは、アッラーの御喜びを願って、あなたがたを養い、あなたがたに報酬も感謝も求めません。
- 10.わたしたちは、主の苦渋に満ちた御怒りの日を恐れます」。

- 11.それでアッラーは、その日の災厄からかれらを守り、素晴らしい喜びを与えられる。
- 12.かれらが耐え忍んだので、かれは樂園と絹（の衣）でかれらに報われ、
- 13.その（樂園の）中で、寢床の上にゆったりと身を伸ばし、かれらは酷暑の太陽も、水る寒気もおぼえないであろう。
- 14.（樹木の）木陰はかれらの上を覆い、（果実の）房は慎ましく垂れ下る。
- 15.銀の水差しとガラスの杯は、かれらの間に回されよう。
- 16.ガラス（の杯と見えたの）は銀で造られていて、かれらは好・の量をそれに満たす。
- 17.かれらはそこで、生姜を混ぜた杯の飲物を与えられよう。
- 18.そこに、サルサビールと名付けられる泉がある。
- 19.また永遠の少年たちがかれらの間を往米し、あなたがかれらを見ると、(捲?)き散らされた真珠であると思うであろう。
- 20.あなたは視線を向けると至福の壮大な三国を認めるであろう。
- 21.かれらは美しい緑色の絹と錦の外衣を纏い、銀の腕輪で飾られ、主はかれらに純良な飲物を飲ませられる。
- 22.「本当にこれはあなたがたに対する報奨である。あなたがたの努力が受け入れられたのである。」（と仰せられよう）。
- 23.われこそは、段階をおってあなたにクルアーンを下したものである。
- 24.だから（伝道に専念し）、あなたの主の審判を耐え忍んで待て。かれらの中の罪ある者や、不信心者に従ってはならない。
- 25.朝な夕な、あなたの主の御名を唱念しなさい。
- 26.そして夜の一部をかれにサジダし、長夜のしじまに、かれを讃えなさい。
- 27.本当にこれらの者は、束の間の生活を愛し、重大な日を背後に捨て去る。
- 28.かれを創り、その四肢を堅く縛り止めたのはわれで□る。われが欲するならば、かれらと類似の外のもので置き替えることも出来るのである。
- 29.本当にこれは一つの訓戒である。だから誰でも望む者には、かれの主への道をとらせなさい。
- 30.だがアッラーが御望・にならなければ、あなたがたは欲しないであろう。アッラーは全知にして英明であられる。
- 31.かれは、御心に適う者を慈悲に浴させ、また不義の徒に対しては痛烈な懲罰を備えられる。